

# Chance Challenge Change

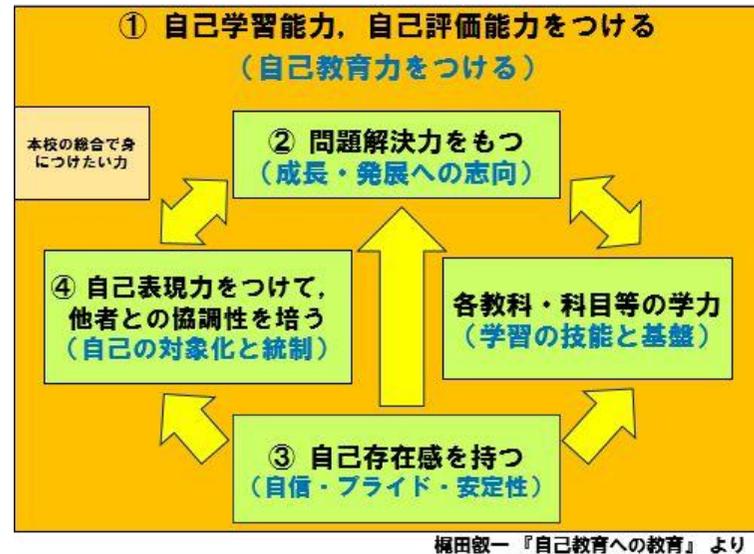
柔軟な発想で試行錯誤し、変化にチャレンジ!

令和3年度  
総合的な探究の時間・ぎふグローバル人材育成推進事業  
岐阜聖徳学園高等学校  
令和4年3月17日 17号

## 総合研修会②「構成的グループエンカウンター」

3月11日(金)教職員向け総合研修会「新学習指導要領の総合において、どのような資質・能力を育成するのか」を開催しました。ゲストティーチャーとして、日本学校教育相談学会岐阜県支部 学校カウンセラー 足立司郎先生をお招きし「自己存在感をもつことについて～どのようにすればらし自分に気づき、自分を認める気持ちをもつのか～」のワークショップを実施して頂きました。

### 新学習指導要領の総合において、どのような資質・能力を育成するのか



果、「自己存在感を持つ:すばらしい自分に気づき,自分を認める気持ちを持つ」が1年生2年生共に低いことが分かりました。

**自己存在感とは、**自分を価値のあるもの、かけがえのない存在として認め、集団の中で居場所があると感じる気持である。それは学校においては、学級集団の中で人とかかわることを通して自分を知り、自分を受け容れ、自分を肯定的にとらえることができたときに感得することができる。(「児童の自己存在感を高める指導法の工夫に関する研究」広島市立井口台小学校教諭 笠井典子)

### 本校の総合における身につけたい力

- ① 自己学習能力, 自己評価能力をつける
- ② 問題解決能力をつける
- ③ 自己存在感を持つ
- ④ 自己表現力をつけて, 他者との協調性を培う

本年度の始めに1年生と2年生に梶田叡一先生が作成された「自己教育力に関する調査票」を実施した結

「自己存在感を持つ」ことを育むために、「構成的グループエンカウンター」という方法があります。今回は、その「構成的グループエンカウンター」のワークショップを足立先生に実施してもらいました。



### 構成的グループエンカウンター

1. 構成的グループエンカウンターにおけるねらい  
①自己理解 ②自己受容 ③他者理解 ④自己主張 ⑤信頼体験 ⑥感受性の促進
2. 本時の内容  
「聞いてもらえる喜び」を体験する
3. 本時のねらい  
聞いてもらえる喜びを実感し、聞く喜びを味わう。この喜びが、相手に対する厚意の念と信頼関係を生む。
4. 背景となる理論及び技法  
うなずき、うながし、観察といったカウンセリングの基本技法

### エクササイズ I

- ① じゃんけんをして、話し手・聞き手を決める。
- ② 話し手は日ごろ感じていること、思っていること、考えていることについてどんでん話す。
- ③ 聞き手は、無関心さを態度に表して、意識的に聞かないようにする。
- ④ 役割を交代し、同じことをする。
- ⑤ それぞれの役割で心にわいてきた感情を、振り返り用紙に記入する。
- ⑥ シェアリング (記入した感情を紹介する)
  - ・相手が聞いてくれないと虚しさを感じる。
  - ・時間が長いとか早く終わらないかなと考えてしまう。
  - ・このような虚しい感情を感じるのは授業中…
  - ・聞いてもらえない時は虚しいし、悲しい。その場から逃げたくなる。



- ・聞いてくれない相手に腹が立つ。
- ・相手が聞いてくれないと、自分が何を話してるのか、何が言いたかったのかわからなくなる
- ・聞き手としては相手の話を無視するのが難しかった。頷きたくなる。

## エクササイズ II

- ① 話し手は、前と同じ内容でもよいから話す。
- ② 聞き手は、「うん、うん」と相づちを打って受容的にしっかり聞く。

さらに聞き手は、「うん、うん」の相づちに加えて、次のような言葉を添え、相手の話を促進するようにする。

- ・そう、それで
- ・それ、いいね
- ・素晴らしい考えですね
- ・そこのところ、もう少し詳しく教えて
- ・他には? など

- ③ 役割を交代し、同じことをする。
- ④ 今度はどんな感じがしたか、前回との違いなどを、振り返り用紙に記入する。
- ⑤ シェアリング（記入した内容を紹介する）
  - ・相手が頷いてくれるだけでもっと話したくなる。
  - ・聞いてもらえている安心感を感じた。
  - ・話し手は身ぶり手ぶりも出てくる。
  - ・話し手側の表情が明るくなる。うれしい。
  - ・何か反応してもらえただけで話がしやすく、時間が短く感じた。
  - ・聞き手も興味ある話が出てくると質問したくなる。頷くだけでは我慢できなくなる。

## 構成的グループエンカウターの意義

聞いてもらえなかった悲しさ、聞いてもらえた喜び。先生方が感じたことは、生徒たちも同じように思ったり、感じたりするもの。聞いてもらえるから話すのであって、聞いてもらえなければ話は途絶えてしまうことになる。こうしたことを、このエクササイズを通しての「気づき」を、自分自身及び他のメンバーと語り合い、分かち合うことで、感じ方・見方・考え方などを高めるとともに、広げていくことになる。



## 構成的グループエンカウターの留意点

- ・言葉で表現することで体験を意識化するとともに、感受性や思いやりを高める
- ・構えないで話せるように配慮する
- ・気づいたこと、学んだことなど、今ここで感じていることを話す
- ・友達について気づいたことを話す
- ・話の途中で否定するようなことは言わない
- ・良いところを見つけて奨励する
- ・よくわからないところは質問する
- ・冷やかさない
- ・聞いている人の顔を見ながら話す（話している人の顔を見ながら聞く）
- ・友達の話から自分が学ぼうとする
- ・話が終わったら感謝の気持ちで拍手する

## おわりに

話を聞いてもらえるだけで、話し手は喜びを感じることができ、安心感を感じることができます。自分の存在を認めることができるようになります。今回、聞き手は頷くだけにしてもらいましたが、相手の話を引き出す質問をしてあげることでもっと話が進み、話し手も自分自身で自分の考えを探索し始めます。自問自答し、そして自己洞察が深まる。そうすると自分で考える力、自分で解決する力が芽生えてくる。相手の話を聞いてあげるだけでここまで発展することができることを感じてもらえたと思います。

